

ゼレンスキー氏「正直でなければ…」 会談後、米テレビに

有料記事 ワシントン = 下司佳代子 キーウ = 藤原学思 2025年3月1日



トランプ米大統領とウクライナのゼレンスキー大統領が28日、ホワイトハウスで会談した。開始から40分ほど経ったところで激しい言い合いになり、**トランプ氏が「米国への感謝が足りない」と声を荒らげるなど協議は決裂**。予定されていたウクライナの希少資源に関する協定への署名も共同記者会見も中止された。

トランプ氏は会談後、自身のSNSに「ゼレンスキー大統領は米国が関与する和平の準備ができていないと判断した」と投稿。「私が欲しいのは平和だ。彼は米国が大切にしている大統領執務室で、米国を軽んじた。和平の準備ができたなら戻ってくればいい」と主張した。週末を過ごすフロリダ州への出発前には記者団に「彼の立場からすると、うまくいかなかったと言えるだろう。**彼は強気に出すぎた**」「**彼は我々が求めているものを求めている。彼は戦い続けることを望み、我々は死を終わらせることを望んでいる**」と述べた。

ゼレンスキー氏「何か悪いことしたか」

一方、会談後も米国に滞在しているゼレンスキー氏は、米FOXのインタビューに応じた。トランプ氏への謝罪が必要だと思われると、「ノー」と答え、**「私は（トランプ）大統領と米国民を尊敬している」としながら、「我々はオープンで、正直でなければならない。私たちが何か悪いことをしたのか、よくわからない**」と述べた。トランプ氏との関係を修復できるかとの質問には、「もちろんだ」と答えた。またゼレンスキー氏はSNSに短い文章を投稿。**米国の支援と自身の訪米の実現に謝意を示し、「ウクライナが必要としているのは、公正で持続的な平和だ。まさにそのために、私たちは働いている」と訴えた。**

ゼレンスキー氏は会談に、いつものカーキ色のスウェット姿ではなく**黒色の服でいつもよりはフォーマルな装いで到着した。**

記者団には会談の冒頭約 50 分が公開され、初めはなごやかに進んでいた。トランプ氏はウクライナに今後も武器を提供するかと記者団に問われると「もちろんイエスだ」と答え、「あまり送る必要がなくなるといい。早く（戦争を）終わらせたいからだ」などと語っていた。

バンス氏が口火「失礼だ」

ところが、40 分ほど経過したところで協議は暗転。同席していたバンス米副大統領が、ロシアのプーチン大統領に厳しい態度をとったバイデン前大統領と違い、トランプ氏は積極的な外交に乗り出していると語ったのに対し、**ゼレンスキー氏は 2014 年に南部クリミア半島をロシアに違法に併合され、トランプ 1 次政権を含む歴代米政権がプーチン氏を止められなかった経緯を話し出した。「いったいどんな外交をするのか」と問われたバンス氏は、そこで「米メディアの前でそう主張するのは失礼だ」と口火を切った。**

バンス氏は昨秋の訪米時にゼレンスキー氏が激戦州ペンシルベニアの陸軍砲弾工場を民主党議員と訪れたことを持ち出して「相手側の選挙運動をした」とやり玉にあげた。「この会談を通して一度でも（米国の支援に）ありがとうと言ったか？」などとまくし立て、「何度も感謝を述べている」と反論するゼレンスキー氏と応酬に。さらに、ウクライナの安全保障は欧州と大西洋を隔てた米国の問題でもあり、「いずれそう感じるだろう」と主張したゼレンスキー氏を、トランプ氏が「我々がどう感じるかは、あなたが決めることではない」と強い口調で遮り、「あなたは今、本当に良い立場にいない」「あなたは第 3 次世界大戦をけしかけているようなものだ」「あなたの兵士は不足している。それなのに停戦は望んでいないと言うのか」などとたたみかけた。

トランプ氏は「もっと我々に感謝すべきだ。我々なしであなたに（交渉の）カードはない」とも語り、ゼレンスキー氏の「態度が変わらなければ取引は難しいだろう」と述べた。

会談はその後非公開に移ったが、決裂は明らかだった。予定された協定の署名も共同会見もないまま、ゼレンスキー氏はホワイトハウスを去った。米 FOX ニュースによると、最後は協議継続を懇願するウクライナ側を、同席したルビオ米国務長官が「蹴り出す」形になったという。

停戦協議の行方は

ゼレンスキー氏にとっては今回、自国への侵攻を続けるロシアに融和的な姿勢を示すトランプ氏をどこまで引き寄せられるかが焦点だったが、**最大の後援者と激しく衝突し、今**

後の継戦や米口間の停戦協議への関与は見通しが厳しくなった。米紙ワシントン・ポストによると、米政権はウクライナへの軍事支援の停止も検討。数十億ドル相当のミサイルや砲弾などの送付が差し止めの対象になる可能性があるという。

トランプ氏の2期目就任後、両首脳の対面での会談は初めて。両首脳の関係は、トランプ氏がロシアのプーチン大統領と電話協議をし、**ウクライナの頭越しに停戦に向けた協議を進めようとしたことでぎくしゃくした。**その後**回復の兆しを見せていたが、会談決裂によりこれまで以上の亀裂が入った**形だ。

今回の会談では、**ウクライナの希少資源について両者が協定に署名する予定**だった。協定案では、**ウクライナ側がかねて求めてきた同国の「安全の保証」をめぐる米国の関与は明確でなく、ゼレンスキー氏は会談でこの点を強く主張するとみられていた。**

トランプ氏に近く、親ウクライナ派として何度もキーウに足を運んできたグラハム上院議員（共和）は記者団に、**ゼレンスキー氏の対応は「度を越していた」と批判し、「（ウクライナは）良い投資先だと米国民に売り込むのはほとんど不可能になった」と語った。**
「辞任して、我々がビジネスができる別の誰かを送り込むか、彼自身が変わる必要がある」と述べた。

【ロシアから】ゼレンスキー氏は「恩知らず」「歴史的」「大敗」と歓迎

トランプ米大統領とウクライナのゼレンスキー大統領の2月28日の会談が決裂したことを受け、ロシアのプーチン政権幹部はすぐに、「歴史的だ」などと歓迎するコメントをSNSに投稿した。

「歴史的だ。意味のある対話だけが、世界的な問題を効率的に解決できる」。政府系ファンド「ロシア直接投資基金」のドミトリエフ総裁はX（旧ツイッター）で、口論する場面の動画をリツイートし、「歴史的だ」と投稿した。

ドミトリエフ氏は2月18日にサウジアラビアで開かれた米口外相らの協議にも参加し、経済分野の交渉で、ロシア側の代表を務める。

ロシア下院のコサチョフ副議長も「今日、ゼレンスキーは大統領執務室でウソをつき続けたが、今回のラウンドは大敗した。次は、はい回るしかない」と指摘。ロシア外務省のザハロワ報道官も「米欧の資金支援だけでなく、ナチスから救った祖先に対しても恩知らずだ」と批判した。

国家安全保障会議副議長のメドベージェフ前大統領は「トランプ氏は初めて、コカインのピエロ（ゼレンスキー氏）に面と向かって真実を話した。『ウクライナ政府は第3次世界大戦で遊んでいる』」とSNSに投稿。「まだ足りない。ナチスマシンへの軍事支援を止める必要がある」と主張した。

【米国内からは】 共和党議員ら称賛 民主党は「ロシアを利する」

トランプ米大統領とウクライナのゼレンスキー大統領のホワイトハウスでの会談が2月28日、決裂したことをめぐり、共和党議員らからはトランプ氏の対応を称賛する声が上がった。一方、**民主党側からは「ロシアを利する」といった懸念が相次いでいる。**

ゼレンスキー氏はトランプ氏との会談に先立ち、超党派の連邦議員と会談した。会談に参加した1人で、共和党のなかでも親ウクライナ派として知られるグラハム上院議員は記者団に対し、首脳会談でのゼレンスキー氏の対応が「度を越していた」と批判した。

この日、報道陣に公開された大統領執務室での首脳会談のなかで、トランプ氏とバンス副大統領が、ゼレンスキー氏との間で口論となった。トランプ氏らはゼレンスキー氏に対し「失礼だ」「米国への感謝が足りない」などと非難した。

グラハム氏は「ゼレンスキー氏と再びともに仕事をできるかわからない」と述べ、ゼレンスキー氏が辞任するか、態度を改める必要があるとまで主張した。

かねてウクライナへの支援継続に反対してきたハガティ上院議員（共和）はX（旧ツイッター）で、「米国は（対ウクライナ支援において）もう当然視されることはない」と述べ、トランプ氏の対応を擁護した。

一方、民主党のバンホーレン上院議員はXで、**ウクライナに侵攻するロシアを利するもの**だとして「不名誉きわまりない」としてトランプ氏らを非難。「米国の恥だ。（ロシアのプーチン大統領らは）シャンパンを開けている」とした。**リード上院議員（民主）も声明で、「米国のリーダーシップの恥ずべき失敗だ。トランプ氏とバンス氏は世界に対し、米国は信頼できないと伝えている」と懸念を示した。**

ゼレンスキー氏はこの日、トランプ氏との会談や共同会見の後、米保守系シンクタンク・ハドソン研究所で講演する予定だった。だが会談の決裂を受けて共同会見は中止され、講演も急きょ取りやめになった。

【欧州からは】ウクライナ支持の声

トランプ米大統領が「米国への感謝が足りない」と声を荒らげるなどして協議が決裂した2月28日のトランプ氏とウクライナのゼレンスキー大統領の会談。欧州の首脳からは、**ウクライナへの連帯を示す声**が相次いだ。

会談の直後、**ポーランド**のトウスク首相は「親愛なるゼレンスキー大統領、親愛なるウクライナの友人たちよ。あなたたちは1人じゃない」とX（旧ツイッター）に投稿した。

北欧スウェーデンの首相府も「ウクライナは自らの自由だけでなく、欧州全体の自由のために戦っている。スウェーデンはウクライナとともにある」との声明をXに投稿した。

欧州連合（EU）の高官によると、EUの大統領にあたるコスタ首脳会議常任議長は会談直後のゼレンスキー氏に電話をし、さらなる支援を表明。「**公平で永続的な平和のために協力し続ける**」とXに投稿した。

ドイツのショルツ首相も「**ウクライナの人ほど平和を望んでいる人たちはいない。だからこそ我々は、永続的で公平な平和への道を模索している**。ウクライナはドイツを、そして欧州を頼ればいい」とコメントした。

EUの外相にあたるカラス外交安全保障上級代表は会談でのトランプ氏の対応を受け、「**今日、自由世界が新たなリーダーを必要**としていることが明らかになった。この課題に取り組むのは、**私たち欧州の人たち次第だ**」とXに投稿した。

伊首相は緊急首脳会議を提案へ

一方、イタリアのメローニ首相は声明で、「西洋の分断は私たち全員を弱体化させ、私たちの文明の衰退を望む者に有利に働く」と指摘。イタリアがただちに米国や欧州の同盟国などに緊急の首脳会議を提案する考えを示した。

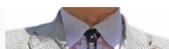
フランスのマクロン大統領は訪問先のポルトガルで記者団に「**支援をしたすべての人に感謝しなければならないし、最初から戦ってきた人たちは尊重されなければならない**」と両者を思いやった。「**私たちが3年前にウクライナを支援し、ロシアに制裁を科したことは正しかったと思うし、今後もそうし続ける**。ここで言う『**私たち**』とは**米国、欧州、カナダ、日本、その他の多くの国の人々のことだ**」とも発言し、米国もウクライナを支援する側に立っているとの認識を強調した。

また、英国のスターマー首相は2月28日夜、トランプ氏、ゼレンスキー氏の両者と電話で協議をした。首相官邸が英メディアに対して明らかにした。

スターマー氏は前日の27日にトランプ氏と会談したばかり。首相官邸は、両者との電話協議の内容には言及していない。一方、「首相はウクライナへの揺るぎない支援の姿勢を維持しており、ウクライナの主権と安全保障に基づく永続的な平和への道を見つけるため、できることをなんでもするつもりだ」としている。

英国はフランスとともに、停戦の際のウクライナ派兵に関する計画を練っている。3月2日には、英国に18カ国を招き、関連の会合を催す予定となっている。

藤原学思 ロンドン支局長



遠藤乾 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)

2025年3月1日7時33分 投稿

【視点】

衝撃的な決裂です。ウクライナという進行中の戦争をめぐり米欧は決定的に割れ、それに応じて（みかけの団結にもかかわらず）欧州内も割れます。アメリカに見放されたウクライナ、次いで欧州は、さらに追い込まれていきます。

世界的なアメリカ帝国は終焉しました。東アジアでの米国の存在感がまだあるので感じにくいですが、**その内実は崩れて**います。そこには**何らかの正しさの装いはなく、単なる強国が自国利益に応じて世界に関わること**になります。利益が感じられなければ、正義も不正義もなく、引いていくことになります。

アメリカの場合、ソ連のように国自体がなくなる訳ではないのですが、世界各地に出張っていた帝国の内実が崩れる時、ひと世代以上、各地にまたがり影響が及びます。アメリカのような世界帝国の場合、それは甚大でしょう。**確実に日本にも**。日米安保と9条平和主義がセットで基軸となっていた戦後国体をむしばむことになるのではないのでしょうか。

三牧聖子 (同志社大学大学院准教授=米国政治外交) 2025年3月1日13時54分 投稿

【視点】

ゼレンスキーの「無礼」な態度に激昂したトランプは、「ロシアは、前任者のバイデンとオバマを軽視したが、自分を尊敬している」と、あたかも**プーチンに「尊敬」を見せないゼレンスキーを非難**するかのよう、そして**バイデンやオバマが勝**

ち取れなかったプーチンの「尊敬」を自分が勝ち得ていることを誇らしく思っているかのように語った。

軍事侵攻を続ける国でも、自分に敬意を示すのならば—その背後にどのような魂胆があっても—厚遇し、侵略の被害国でも、自分の意見に異を唱える者には容赦無く厳しい言葉を投げかける、そんなトランプの姿が世界にさらされた。

もはや、**「自由主義世界の盟主」としてのアメリカは名実ともにいない、それを世界の人々に知らしめた歴史的な会談**だった。

昨今のトランプや側近の発言には、ロシアとのビジネス再開を待望するかのよう
な発言が目立つ。**国際法や規範には無関心**で、赤裸々に物質的な利益を追求するト
ランプ政権の誕生を好機と捉え、プーチンは占領下に置くウクライナ東部4州での
鉱物資源の共同開発をトランプに持ちかけている。

**占領地で米露が鉱物資源を共同開発するようなことは、占領の固定化につながり
かねず、アメリカが侵略に加担することになりかねないが、「自由主義陣営の盟
主」という座から名実ともに降りようとしているトランプのアメリカは、そうした
帝国主義丸出しの「取引」に進むのか。**

20世紀に、国際社会では、多くの戦争の犠牲を経ながら侵略や占領の違法化が進
められていったが、そうした時代の「常識」では考えられなかったようなことも、
トランプ時代では起こりうるのかもしれない。

**世界は急速に帝国主義の時代に巻き戻されつつあり、強い国が中小国からとりた
いものをもって何が悪いという悪夢のような世界が到来しかねない。今回ホワイト
ハウスで起こったことは決して他人事ではない。**